

### 第3回 榛原地域学校用地候補地選定委員会 会議録

市長挨拶

佐藤委員長

議題へ移ります。前回の振り返りと本日の目的の確認委員個人で各候補地の評価をしていただいた。最終候補地をまとめて提案していきたいと考えている。先に[REDACTED]、ご意見をいただけますでしょうか。

[REDACTED]  
個人の意見になるが、以前から申し上げているとおり、子どもの安全という目線に立つため、ぐりんばるを第一候補とした。豪雨の後の稲わらの状況、自分が勤務しているときもあった。翌日状況を見たが、大変な状況だった。あれが管理する側としては、大変。対応の予算を付けたら、対策を行うなどのことをしていただきたいと思う。都市部の方は貯水池を地下に整備したりだとか、そういうのはできないのか。グラウンドが毎回浸かってしまう。できるのであれば、地下に遊水、貯水池を設けるとか、予算の問題もあると思うが、可能ならそういう対応ができないのか、検討していただきたい。

佐藤委員長

安全性の問題、一つの大きな論点。台風の被害について、事務局より、説明をお願いいたします。

事務局から。資料1について情報提供。

佐藤委員長

ありがとうございました。台風時の状況の説明があったが、質問はありますか。

市長

グラウンドの地下に貯水池をという提案があったが、川の河床よりも深くなってしまうと、貯水機能を果たさないということになってしまう。グラウンド自体をかさ上げすることも方法のひとつ。ランニングコストから考えると、稲わらの撤去費用の方が安くなるだろうという考え。

内山部長

稲わらについての処分は翌々日、市の教育委員会と学校の職員で撤去作業を行った。グラウンドの表土の処理については、田んぼ土が流れ込んでしまった。こちらについては今

後予算化をして、おおむね100万円～150万円程度予算化をして、対応する予定であります。

佐藤委員長

ちょうど審議をしているときに、先日の大雨で実証実験が行えたような感じになってしまった。今回起きた被害状況も考えながら検討していかなければならない。

干潮時に重なってこれだけの被害であった。満潮時に重なった場合はどれだけの被害があるのか。

内山部長

今回は中地区の方から水が来ているという感じだった。そういう状況の中では厳しい状況であると感じた。雨の降る時間や満潮干潮での影響の変化が心配なところではある。

※ [REDACTED]、所要の為、途中退出

学校の施設が浸からなかったとはいうが、そういうところに学校を作ること自体に問題があるのではないか。もし作るなら、洪水対策、安全対策、を考えて対策をしてからでないと、ここに学校を作るのは心配。今回はぐりんぱるの候補地について、コスト的に問題が大きいということで、榛原中学校にせざるを得ないという状況である。他に候補地がないのか、と思ってしまう。ここしかないというのであれば洪水対策、安全対策をしっかりと考えて、進めていってほしい。

佐藤委員長

ありがとうございます。では、一旦、水害についての審議は終わりにして、審議に入っていきたいと思います。資料2について事務局から説明をお願いします。

資料2について、事務局から説明

点数差は150点ほど。資料をもとに審議願います。

[REDACTED]から

全体を見ると、ぐりんぱるの移転を行ってまでやるというのは課題として大きい。経済面で比較にならないほどだったから、仕方がない部分もある。総合的には中学校のところが点数が高い。洪水の時、水が残っているが、子供は学校にいる、という状況になったとき、避難

できるように道路のかさ上げについても議論していただけたらと思います。

内山部長

子どもたちに対しては、休校、早退、等の対応をしている。浸水が起きるような雨の時は通学はさせない、遅らせる等の対応で可能だと考えている。アクセスの関係について、グラウンドは浸かっていたが、正門側は浸かっていなかった。ある程度のアクセス道は確保できているかと考えている。

学校には教職員もいるので、せめて南北の道路ぐらいは抜けられるようにできないか。せめて、グラウンドの横の道路ぐらいは大雨が降っても通れるようにできないのかな、と思います。

防災についてはぐりんぱるが高得点。用地建設についてはお金がかかるという観点で点数が伸びない。55億というコストの面。ほぼ確実にクリアできない。それに対して降水対策はなんとかできるのでは。

安全性が、という点で話題に上がっている。被害者は一人も出ていない、という。水害があって、事故が起こるといのはほぼ考えられない。と思います。榛原中学校に津波が来るような状況になれば、静波、細江、が水没する状況となる。第4次想定の中では津波は来ないという想定になっている。私はむしろ、地震によってぐりんぱるのところが崩れないかな、という心配がある。榛原中学校の向かいで土砂崩れがあったが、校舎までくるほどではない、そういう地形ではない。財政的な面で、費用の部分で市民の理解は得られないと思う。代替地の問題もある。さらにぐりんぱるは今、非常に汎用性が高いグラウンドとして機能している。志太榛地区の大会がここでしかできない、という運動場でもある。非常に乾きもいい。全国レベルのソフトボール大会もここで開かれるほどである。雨の後でもここならすぐ活動できるだろう、という評価だから今の稼働率でもある。しかし、代替地としてぐりんぱる級のグラウンドが田んぼにでもできるものなら、今の水はけのよさは得られないというように感じた。それでは代替にはならないし、理解が得られない。

安全面を考えればぐりんぱるが優れている。ただ、洪水被害で困っていることがあって、それが解決できるなら榛原中学校でも問題ない。ただし調整池だからグラウンドが浸かっても仕方ない、ということを前提に考えない方がいいと思う。

点数的にみれば榛原中学校がいい。専門家の意見は反映されているのか。何か工事、工法によって、対策することは可能なのか。駐車場の問題、いま80台程度の駐車場。1200人規模の学校になったら、駐車場の規模が足りなくなる。駐車場の確保は可能なのか。伺いたい。

#### 事務局

駐車場の台数はあくまでも仮である。十分な台数を確保できるように検討していきたい。また校地全てをかさ上げすることはできない。地域に洪水被害が及んでしまう。その中でも校舎は浸からないため、ここを候補地とした。

地下貯留も一つの考え方。学校だけではなく、この地域全体の治水機能を考えていかなければならない。表面だけの問題であれば人工芝と入れるとか、そういう方法もある。災害を考えると、100点を取るのは難しい。命を守ったうえで、教育活動の早期再開が求められている。災害の規模によって、翌日から全て活動ができるようにするのは費用も莫大になる。今回の榛原中学校周辺の浸水状況を見させてもらった。命にかかわる被害がなくてよかった。校舎自体は100%安全を目指して作っていくことは可能だと思う。耐震性は継続使用できるレベルまで求めるのか、その部分も考えていかなければならない。災害以外の項目を見ても、今の榛原中学校の敷地はとても優れた場所なのだと感じた。

いかがか。

技法的にここを浸水エリアとしないようにすることはできるのか。ここを浸水しないようにできるのかできないのか。こちらに溜めずに、他に溜めるとか…。

#### 建設課長

勝間田川に榛中横を流れる新川が流れ込んでいる。勝間田川の改修が下流部から進んでいる。勝間田川は今3年確率で県が整備している。しかし現実として1時間で100mmという雨が降ってしまうと、どうしても内水氾濫が起きてしまう。勝間田川の水位が上がり、本流に流れていけなくなるため、仕方がない。このような浸水被害は昨今珍しいものではない。ハード対策ではなく、ソフト対策、「逃げる」というのを前提にしている地域もある。普段の雨量では、早々こういうことにはならないが、河川整備が追い付いていないのが事実。令和元年にも台風19号があった。そして今回。度々あることではないということも考えると、

現状はこういう形で進んでいければと思う。

台風19号のとき、橋向で床上浸水が何件かあった。今回はなかった。中地区で越水をしてきたため、橋向は大丈夫だったのかな、と思う。榛原中学校はその時は4, 50cmは水位が低かったと記憶している。階段一つ分、水の高さが低かったと思う。今回は水が流れたという感じ。引くのも早かったと思う。ただ、翌朝見に行った時、やはり稲わらなど、ひどい状況だった。

佐藤委員長

建設部の説明、勝間田川は改修を進めている。周辺のインフラは今後向上していくという受け止めでいいか。

建設課長

中学校の南側で河川改修の事業も進んでいる。整備が進めば状況は改善すると思われる。

ぐりんぱると榛中、安全対策とコストの部分が話題になっているかと思う。学校の先生とか行政の場合、安全配慮義務がある。安全配慮義務は具体的な法令はないが、裁判の判例がある。学校の先生なら社会の信頼を裏切らない、信頼に基づく関係性から、学校には安全配慮義務というのがある。ただしそれは教育活動中。実際にいつ使われるかという、事件や事故が起きたときに使われる。予見可能性。事件や事故が予測できたか。結果回避可能性。結果を予測できたなら回避できたか。それにもかかわらずそれをしなかったら、安全配慮義務違反となる。今回、予見可能性というのが大きな論点となる。東北の震災の時も予見可能性というのが話題になった。津波の浸水区域から外す、ということをしている。地震は予測がそもそも難しいというのがある。地震と津波は違う。洪水被害については予見可能性としてはそもそも浸かるというように作られている。結果回避性という部分が論点になる。安全対策という部分ではとても大事なところなのかな、というところ。ある意味コントロール可能な部分ともなる。対して、コストの部分は、コントロールできない。事実としてコストがかかってしまうのはどうしようもない。安全配慮義務という観点から見ると、洪水は判断しやすい災害でもあるし、結果回避可能性についても復旧を迅速に行うとか、そういうところも重要。災害は断水、停電もある。これから小中一貫校となって、そうなった時にどうするのか、町全体として、地域として榛原の地域をどうしていくのか。むしろこのリスクを取って、特色のある地域というのを作っていくのも一つの方法なのかなと思う。

佐藤委員長

、今後、具体的な整備として、基本構想・設計の段階へ入っていくと思う。委員の知見の範囲で結構なので、学校用地としてこういう立地が安全性の面から見て、こういう工夫をすれば安全性を担保できるという例など挙げてもらえるか。

をさせてもらっているが、校地選定の段階で、河川洪水については必ず外さなければならない条件ではない。県は基本的に対策できる条件として見ている。榛原中学校の地盤についてもボーリングデータを見たが、他に比べて特別悪い地盤ではない。きわめて普通。地盤は問題にならない。それ以外の要素で検討していくべきかと。洪水、浸水が起きることなどは、逆に逆手にとって、防災教育として地域、学校の特色としていくのもやり方の一つ。今回の大雨の雨量について、静岡空港の増築部分で雨漏りが起きた。それは設計時の想定よりも多い雨量が降ったため。そのぐらい、今回の雨は想定外の大雨であったということで、そのぐらいの大雨でないとここまでの浸水被害は起きないとも受け取れる。想定を少し上回るデータを基準に設計をしていかなければ、安全率をもう少し高く考えていく必要があると感じている。

佐藤委員長

ありがとうございました。他に、今までの意見を聞いて、ご意見、お考えになったことはあるか。主要な議論はしつくした、ということでもいいか。総合的に両方の地域を比較して点数をつけて評価していただいた。皆さまのご意見を集約すると、榛原中学校周辺が候補地としてもっとも適切だと伺ったが、いかがか。異論があれば発言を願います。

最終候補地として、榛原中学校周辺を最有力候補地とさせていただくが、よろしいか。

全員

異議なし。

佐藤委員長

提案の理由、内容について、教育委員会に出したい。

付帯意見や、デメリットとしてはこういう内容がある。というのを付けて提案したい。そのため、榛原中学校は浸水の状況について対策することを付帯意見として皆様にお示して、了解を得て、まとめとさせていただきたいと思う。付帯意見として、例えば安全性の問題で、から提案があったが、浸水が懸念されるため、今度十分配慮して、検討をしてもらいたい。対策をしてもらいたい、等の意見を付けてもいいかと思う。いかがか。

地震が起きたとき、避難所としての役割。洪水においても、避難できるように対策をしておかないとならないと思う。

からもあったとおり、本校舎は大丈夫であったが、念のため、浸水に対する安全性を確保するために地盤のかさ上げが必要と考える。

動線。学区はひとつになる。今までの通学と動線が変わってくる。中学生に加えて小学生の通学も重なってくる。竹橋もかなり老朽化している。道路整備も通学路整備も同じように進めていってほしい。

調整池の問題。今のグラウンドが調整池となっている。あくまでも2次的な調整池ではないか。1次的な調整池を作ることを付帯意見としてほしい。

デメリットも載せたうえで、だれどもここにしたよ、ということで付帯意見としてほしい。

地域の浸水の安全性について配慮  
校舎、体育館の安全性の担保を持たせること

デメリットについても説明をして、理解を得ていくこと。

佐藤委員長

報告書のまとめ方についても、今委員の皆様からご意見をいただいたので、事務局でまとめてもらい、各委員にお伺いを立てるといった形を取らせていただきたいと思います。

全員

異議なし。

佐藤委員長

報告書の内容としては、今日の意見を盛り込んで榛原中学校を最有力候補地として、教育委

員会に提出していきたいと思いますがいかがか。

全員

異議なし。

佐藤委員長

では、3回にわたる委員会にご尽力いただき、ありがとうございました。

教育長から挨拶。

事務局

提案書と付帯意見をまとめた報告書を皆さんに確認していただくこととなる。報告書案が出来次第、御連絡を取らせていただく。よろしくお願いいたします。